

日付	JIS番号：発効年 規格名称	件名	問合せ内容	回答
2017. 10. 25	JIS G3109:2008 PC鋼棒	JIS G 3109 (PC鋼棒) 規定の引張試験片 (2号) の径の一部が、JIS Z 2241規定の同試験片径の上限値を超えており、矛盾する件	<p>G3109 (PC鋼棒) の9.2.2のa)は、引張試験片を「Z2201に規定する2号試験片に準じる (本質問は丸鋼棒のケース)」と規定しています。「準じる」とは「則る、従う」などの意味と存じます。</p> <p>Z2201は既に廃止され、内容はZ2241に吸収規定されましたが、2号試験片に関する規定は両者変わらず、「2号試験片は、呼び径 (又は対辺距離) が25mm以下の棒材に用いる」と定められており、かつ、「径又は対辺距離」も両者とも同様規定で、Z2201では「もとのままとする」、Z2241では「材料の元の径又は対辺距離のまま」とそれぞれ規定され、現在はZ2241のみが同試験片に係る有効規定として存在しています。</p> <p>すると、G3109は「呼び径が26mm以上の丸鋼棒」も対象としていますが、その引張試験片として何号試験片を規定していることになるのでしょうか。</p> <p>また、G3109の伸び、引張強さ及び耐力は、引張試験片として何号試験片に基づいて規定されたのでしょうか。</p>	<p>現行規定では、呼び径25mm超えのものに対する規定がないこととなりますが、呼び径25mm超え丸棒鋼の試験片サイズは受渡当事者間の協定などで決定してください。</p> <p>JISにおいて「準じる」として規定している場合に、それぞれが意図する意味は統一的ではありませんが、問合せの「準じる」は、規格外の寸法については、上記で差し支えない場合となります。</p>